

# 台風

## の襲来に備えて

「台風シーズン」の到来です。台風は、地震や集中豪雨と違って、ある程度襲来時期や大きさを予測することができます。日ごろから気象情報に注意して、万全の対策を心掛けてみましょう。

### 万全の対策で備えよう

台風には十分な警戒を！

台風の死傷者の多くは強風によるものです。台風が接近中に屋根に上つていて飛ばされて転落したり、家や船、田等の見回りなど屋外での作業中に起こっています。また、大雨により河川等が増水するおそれがありますので、近づかないようにしましょう。

早めに台風に対する備えを完了し、強風時にはなるべく屋外へ出ないようにしましょう。

台風が近づいたら

テレビ等の台風情報や気象情報に注意し、余裕を持って行動ができるよう万全の対策をとりましょう。

夜の停電に備えて

停電になっても慌てないように、事前に懐中電灯や携帯ラジオを決まった場所に置いておきましょう。

強風によって電柱が倒れたりすると、長時間に渡り停電する

場合があります。予備の電池や食料品・飲料水を十分用意し、風呂には水を張り（幼児の浴槽への落下に注意）、トイレなどに使う生活用水を確保しておきましょう。

家のまわりの安全点検

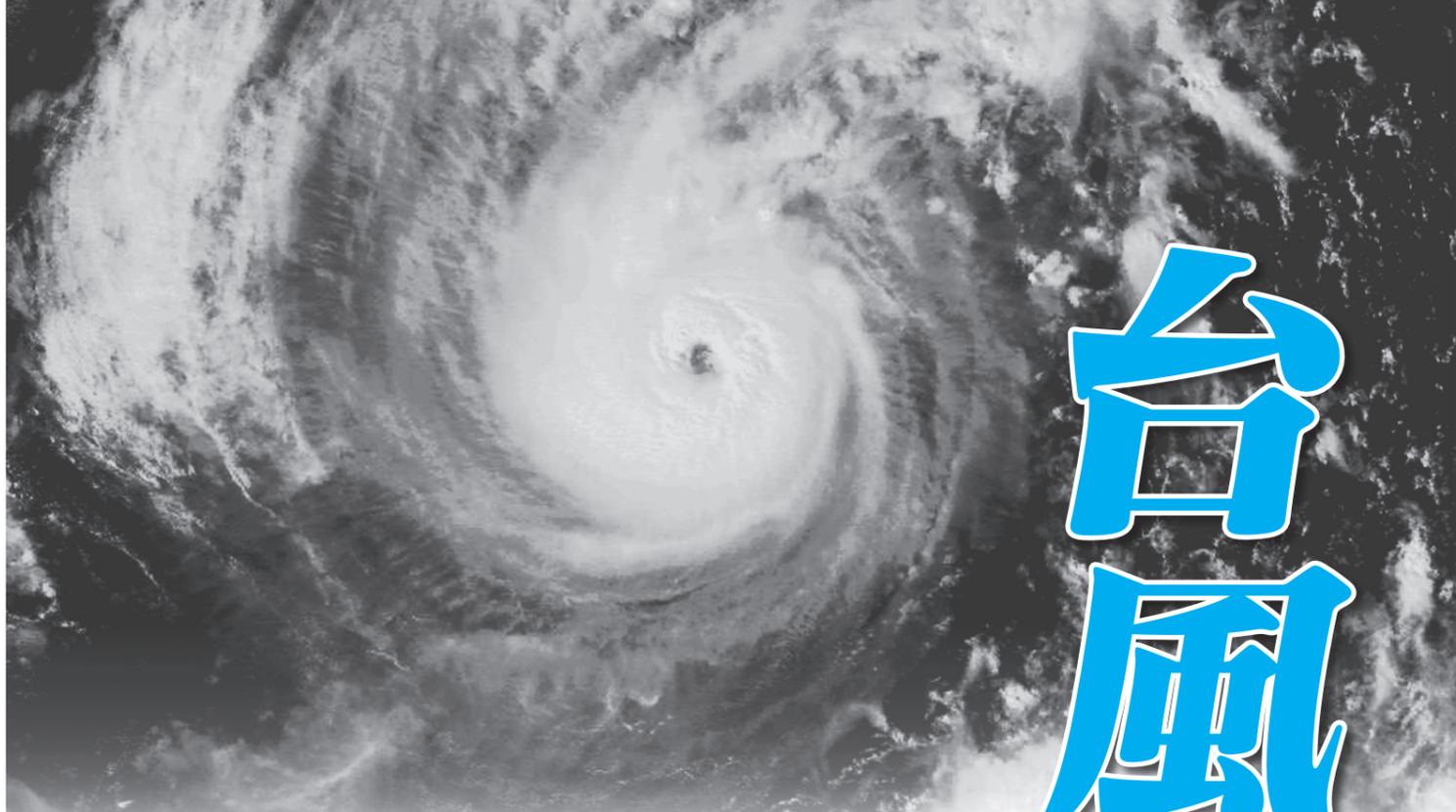
・家のまわりの飛ばされそうなものは取り込んでおく  
・住宅の瓦、雨戸、アンテナ等の補強をしておく  
・水路のゴミや土砂、住宅の雨どいの掃除をしておく

避難の準備

・避難場所を確認し、家族みんな避難経路の話し合いをし  
・避難に備えて、乳幼児や病人、高齢者の支度を整えておく

台風通過後の確認

・家のまわりに危険はないか点検しておく



### 山口県土木防災情報システムを活用しよう

市内6河川（木屋川、泉川、掛淵川、大坊川、深川川、三隅川）の水位や雨量等の情報は、山口県土木防災情報システムで見ることが出来ます。

■山口県土木防災情報システム  
http://y-bousai.pref.yamaguchi.jp

### ハザードマップを活用しよう

長門市では洪水ハザードマップ（木屋川、泉川、掛淵川、大坊川、深川川、三隅川に関する世帯）と地震防災マップを配布しています。

洪水や土砂災害の危険性を認識していただき、いざというときのために役立ててください。

### 長門市防災メールを活用しよう

6月から長門市防災メール配信サービスを開始しました。市からの気象情報、避難情報や、交通安全、防犯、国民保護の情報などを携帯電話やパソコンに配信しています。

登録は無料ですが、メールを受信するときにかかる通信料は自己負担となります。

#### ●登録・変更方法

1 登録・変更用のアドレス、  
e-nagato@xpressmail.jp  
へ空メール（件名や本文を入力しないメール）を送信してください。QRコード対応の携帯電話をご利用の場合は下図からアドレスを読み込みます



2 登録・変更用メールが届きます。メール本文内に記載されたアドレスにアクセスしてください

3 登録・変更画面の指示に従って、必要な情報や地域にチェックしてください。

4 「登録」ボタンを押して登録完了です

#### ●解除方法

1 解除用アドレス、  
e-nagato-d@xpressmail.jp  
へ空メールを送信してください

2 解除用メールが届きます。本文内に掲載されたアドレスにアクセスしてください



■問い合わせ 総務課地域安全推進室  
Tel 23・11111

### 台風ミニ知識

台風とは

北西太平洋の海上で発生した熱帯性低気圧で、中心付近の最大風速が毎秒17.2m(m/s)以上になったものです。

台風のエネルギー

平均的な台風を持つエネルギーは、広島、長崎に落とされた原子爆弾の10万個分に相当する大きなものです。しかし、海上との摩擦により、エネルギーが少なくなつて日本に近づいてきます。

台風の「大きさ」と「強さ」

台風を表す言葉として台風の「大きさ」と「強さ」があります。「大きさ」は「強風域（平均風速15m/s以上の強い風が吹いている範囲）」の半径の大きさと判断します。また「強さ」は「最大風速」で表します。

さらに、強風域の内側で平均風速25m/s以上の風が吹いている範囲を「暴風域」と呼びます。

大きさ

- ・表現なし 500km未満
- ・大型 500km以上 800km未満
- ・超大型 800km以上

強さ

- ・表現なし 17.2m/s以上 33m/s未満
- ・強い 33m/s以上 44m/s未満
- ・非常に強い 44m/s以上 54m/s未満
- ・猛烈な 54m/s以上

#### ■雨の強さと予想される被害の関係

1時間雨量	予報用語	イメージ	被害発生状況
10mm以上 20mm未満	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続く場合は注意が必要
20mm以上 30mm未満	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30mm以上 50mm未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要
50mm以上 80mm未満	非常に激しい雨	滝のように降る	マンホールから水が噴出する土石流が起りやすい
80mm以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く厳重な警戒が必要

#### ■風速と予想される被害の関係

平均風速	予報用語	イメージ	被害発生状況
10m/s以上 15m/s未満	やや強い風	歩きにくくなる	取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始める
15m/s以上 20m/s未満	強い風	風に向かって歩けない	ビニールハウスが壊れ始める小枝が折れる
20m/s以上 25m/s未満	非常に強い風 (暴風)	しっかり体を確保しないと転倒する	鋼製シャッターが壊れ始める飛ばされた物で窓ガラスが割れる
25m/s以上 30m/s未満		立ってられない	ブロック塀が壊れる樹木が根こそぎ倒れ始める
30m/s以上	猛烈な風		屋根が飛ばされる木造住宅の全壊が始まる

#### 台風のコース

台風の進路には、月ごとに平均的なコースがあります。日本へ接近・上陸する台風は、太平洋高気圧の張り出しが弱まる8月と9月に多くなっています。

#### 台風の発生数

台風は、年間で平均約27個発生し、そのうちの平均約3個が日本に上陸しています。また、上陸しなくても平均約11個の台風が日本に接近し大きな被害をもたらしています。その多くは9月にやってきます。

